

令和5年度 広島平和記念式典派遣事業 平和大使 活動報告書

 燕市教育委員会



「非核平和都市宣言」（平成18年12月25日）

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1
II	ごあいさつ・・・・・・・・・・	2
III	令和5年度 広島平和記念式典派遣事業 日程・・・・・・・・・・	3
IV	研修レポート・・・・・・・・・・	4
	① 出発式 平和大使決意表明	
	② 平和大使レポート	
	燕中学校 阿部 心音	
	小池中学校 常野 莉央	
	燕北中学校 竹田 夢羽	
	吉田中学校 佐野 莉音	
	分水中学校 小田島 和香	
	③ 引率者レポート	
	学校教育課 指導主事 小林 大介	
	学校教育課 指導係 主任 桎木 綾香	
V	派遣事業の概要・・・・・・・・・・	25
VI	広島平和記念式典派遣事業の様子・・・・・・・・・・	27

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 鈴木 力

広島・長崎の被爆の悲劇から、今年で78年が経ちました。戦争を知らない世代も増え、悲惨な記憶を風化させることのないようにしなければなりません。私たちは、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、世界でただ一つの被爆国の国民としてしっかりと理解し、後世に永遠に語り継いでいくことを大切にしなければなりません。

世界に目を向けてみますと、地域紛争や戦争、あるいはテロ行為によって、今もなお多くの人々の尊い命が失われています。

燕市は、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。そして、平成20年度から広島平和記念式典へ燕市内中学校5校の代表生徒の派遣を始め、今年で13年目を迎えました。

生徒たちは、平和大使として、各学校で制作した千羽鶴の奉納、広島平和記念資料館や原爆ドームなどの見学、被爆体験講話の聴講、とうろく流しなどを体験してきました。そして、8月27日の報告会では、生徒たちが、直接目と耳で学び、肌で感じてきたこと、そして一人一人が考えた「平和とは何か」を市民の方々へ発表し、「私たちから平和を実現していきます。」と力強く宣言してくれました。

戦争の体験を語れる方が減ってきている中で、直接話を伺い、資料などを目にしてきたことはとても貴重な体験だったと思います。平和大使たちには、これからも、体験し、感じたことを学校、家庭、地域、そして世界へ向けて発信するとともに、平和の大切さ、命の尊さについて考える機会をさらに広げ、自らできることを考え、積極的に行動してほしいと思います。まずは、相手の気持ちを思いやること、人の痛みを理解することが、その第一歩だと思います。今後の平和大使の活躍に期待しています。

終わりに、今回の事業実施にあたり多くの方々からご協力を賜わりましたことに、心から御礼を申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育委員会教育長 小林 靖直

燕市では、非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内5つの中学校の代表生徒を平和大使として広島へ派遣しています。平和大使は、広島平和記念式典へ出席するとともに、各中学校の生徒たちが、戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りし、平和への願いを込めて作った千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納してきました。

私たちは、広島原爆投下について、学校での学び、テレビ、新聞などでの報道から、亡くなられた方の数や当時の惨状などを知っています。しかし、実際に広島市を訪ね、広島平和記念式典に参列し、その日その場所を訪れないと感じることのできないもの、教科書や新聞などの文字や写真だけでは伝わらないことを、私たちに教えてくれます。

今回、平和大使として広島へ派遣された5名は、五感を働かせ、現地を訪ねたからこそ分かること、感じられることなどをたくさん吸収してきました。戦争や平和について考え、この平和を守っていくために、できることから行動し、未来をつくろうという思いが、この報告書を読んでいただければ伝わるものと思います。

終戦から78年が経ち、その歴史を私たちに伝えてくれる語り部の方も年々少なくなってきています。貴重な体験をしてきた平和大使の皆さんには、戦争や核兵器の使用という過ちを二度と繰り返さぬよう、学んだこと、感じたこと、そして平和の尊さを未来の世代にしっかりと伝えてほしいと願っています。

最後になりますが、広島平和記念式典派遣事業を開催するにあたり、平和大使の皆さんを快く送り出してくださった保護者の方々、ご支援、ご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

令和5年度 広島平和記念式典派遣事業 日程

事前研修 7月25日(火)

18:30 ~ 19:30

- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 広島平和記念式典派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)
 - ・当日までの準備



1日目 8月5日(土)

- ◇ 出発式(燕市役所) 6:50 ~ 7:10
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:08 ~ 14:27
- ◇ 被爆体験講話(広島市青少年センター) 15:15 ~ 16:30
- ◇ 平和記念公園 16:45 ~ 19:00
 - ・千羽鶴奉納(原爆の子の像)
 - ・広島平和記念資料館見学
- ◇ ホテルにてミーティング 20:30 ~ 20:45



2日目 8月6日(日)

- ◇ 広島平和記念式典参加 8:00 ~ 8:50
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(こども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・ひろしま平和の歌(合唱)
- ◇ 献花 9:00 ~ 10:00
- ◇ 広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 10:15 ~ 11:15
- ◇ とうろう流し受付 12:30 ~ 13:00
- ◇ ヒロシマの心を世界に2023見学 13:30 ~ 15:00
 - ・広島市立舟入高等学校演劇部による演劇鑑賞
- ◇ 平和記念公園 15:30 ~ 16:45
 - ・ボランティアガイドによる公園内見学
- ◇ とうろう流し 17:30 ~ 18:30
- ◇ ホテルにてミーティング 20:00 ~ 20:10



3日目 8月7日(月)

- ◇ おりづるタワー見学 10:00 ~ 11:30
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:18 ~ 18:29
- ◇ 解散(燕三条) 18:45



研修レポート

① 出発式 平和大使決意表明

② 平和大使レポート

燕中学校 阿部 心音

小池中学校 常野 莉央

燕北中学校 竹田 夢羽

吉田中学校 佐野 莉音

分水中学校 小田島 和香

③ 引率者レポート

学校教育課 指導主事 小林 大介

学校教育課 指導係 主任 桎木 綾香

令和5年度 広島平和記念式典派遣事業 出発式 平和大使決意表明

■燕中学校：阿部 心音

戦争の恐ろしさや原爆の悲惨さ、平和の尊さなどについて一人でも多くの人に語り継いでいけるようにたくさん学んで来たいと思います。平和の有難さを心に刻んで充実した三日間にしたいです。

■小池中学校：常野 莉央

世界唯一の被爆国である日本の一員として、被爆地である広島で平和についてたくさんのことを学んでこようと思います。原爆投下についての理解を深め、学んだ知識を燕市の方に伝え、忘れてはいけない知るべきものと実感していただけるように努めていきます。そして、この機会をいただけたことへ感謝を忘れずに、広島だからこそ得られるものを吸収してきます。

■燕北中学校：竹田 夢羽

私は今回の派遣で、世界で初めて原爆が落とされた広島でしか学ぶことができないことをより多く学んできたいと思います。そして、燕市に帰ってきたときに、より多くの燕市民に現地で学んできたことを伝えられるように精一杯頑張ります。

■吉田中学校：佐野 莉音

広島でたくさんを経験し、たくさんを学び、燕市の平和大使として自分にできることを考えながら活動したいです。そしてこの経験を燕市の皆さんにしっかり伝え、少しでも多くの人が「平和とはなにか」を考えるきっかけになれるように精一杯頑張ります。

■分水中学校：小田島 和香

私はこの広島派遣を通し、戦争の恐ろしさと平和の尊さについて学びたいと思います。現地へ行き、平和な世界になるにはどう行動すればよいのかなど自分自身で考えたいと思います。平和に向けて私達ができることは戦争の経験を伝えることだと思います。派遣を通して学んだことを全校や燕市の皆さんに伝えられるよう頑張りたいです。

1. 事前学習「広島原爆投下の背景」

米軍が原爆投下の目標にしたのは広島と小倉（現在の北九州市）、新潟、長崎。私達の住む新潟県にも原爆投下の恐れがありました。とても恐ろしい恐怖は、私達のすぐ側まで来ていたのです。あなたならどう考えますか。

（1）原爆が落とされる前の様子

「原爆ドーム」は、広島市のほぼ中心を流れる川のほとりに建っていました。右の写真は、被爆前の写真です。元々は、物産陳列館として1915年に完成しました。建てられた当時は、小さいながら、ひときわ目立つ建物だったそうです。



（引用元／www.city.hiroshima.lg.jp）

（2）日本に原爆を投下することを決めた理由

アメリカは当時、日本をできるだけ早く降伏させアメリカ軍の犠牲を少なくしたいと考えていました。また、アメリカは日本に原爆を投下し、戦後、世界で優位に立ちたいと考えていました。更に、20億ドルの経費と最大時には12万人以上を動員して開発した原爆が戦争終結に繋がったとアメリカ国内向けに正当化する必要もありました。こうした中、広島を第一目標としたのは、目標都市の中で唯一、連合国軍の捕虜収容所がないと思われていたためです。

（3）どのようにして原爆を投下する都市が決められたのか

原爆を投下する都市を決めるとき、次のような都市にしたと言われています。

- ①原爆の投下により、日本の国民が戦争を続ける意志をなくさせるような都市
- ②日本の軍隊や工場などがある都市
- ③空襲による被害を受けていなくて、原爆の力や効果がわかりやすい都市

（4）なぜ新潟に原爆が落とされなかったのか

新潟市が1998年に編纂した「戦場としての新潟」によると、アメリカ軍の資料には「原子爆弾攻撃のために取り分けてあった四都市の中で、新潟は工業が集中している地区と小さな工場を含んだ居住地域とが互いに遠く離れているため、この種の攻撃のためには不適當である」と記してあります。

（5）事前学習を通して考えたこと

原爆を投下した理由が戦争を早期に終わらせたかったからだを知り、一瞬にして多くの尊い命を奪ったことをつらく思いました。無差別に多くの人の命を奪った原爆はとても酷いです。いち早く核兵器のない世界を私達から作っていくべきだと思いました。

2. 学びの記録「被爆体験講話」

広島派遣1日目、実際に被爆した波田保子さんに当時の状況や思い、被爆した後どのように過ごしてきたかなどをお話していただきました。波田さんは小学校3年生のときに爆心地から20km離れたところにある学童疎開先で被爆しました。被爆された方から直接お話をうかがえてとても貴重な経験になりました。

原爆が落とされる前までの広島は建物疎開が行われていました。建物疎開とは、空襲による火災が広がるのを防ぐため、あらかじめ建物を取り壊して空地を作ることです。やがて建物疎開は落ち着き、集団疎開が始まったそうです。

波田さんのご両親は広島で被爆し、お母様はほぼ無傷、お父様は家の下敷きになり大怪我を負いました。波田さんは疎開先でガタガタと学校が揺れるのを感じ、遠くの方に異様な雲が見えたそうです。そんな中でも波田さんのご両親は、一番初めに疎開中の波田さんを迎えに来たそうです。しかし、迎えに来たお父様はボロボロで自分のお父さんとは思えなかったそうです。自分の父なのに顔を見ても父だと思えない、そのくらい原爆の力は大きく、悲惨だったことが伝わります。その後、お父様は放射線の急性症状が出たそうです。生死をさまよいましたが、放射線と戦いながら生き延びたそうです。

その後、波田さん家族は保護住宅に住みましたが、水や電気、収入もなく息の詰まる生活で、今までどのように過ごしていたかも分からないくらい辛かったそうです。また、波田さんのお父様は仕事にも行けず、家族にあたってしまう日々が続いたそうです。

私はこのお話を聞き、原爆は幸いにも生き延びた人たちにも苦痛を与え、すべてを奪うものだとは再確認することができ、二度と同じような過ちを犯してはいけないと思いました。

波田さんはお話の最後に、「いつまでもこの青い空が続くように」とおっしゃっていました。今の平和があるのは昔の方々のおかげです。私達が平和を次に繋げていかなければなりません。この世界から原爆のような核兵器がすべてなくなることはまだ難しいかもしれません。しかし、私達が戦争の恐ろしさや原爆の悲惨さを理解し、未来へ繋げていくことで平和は作られていくと思います。私は、昔の方々の思いを胸に平和を作っていきたいと思います。



写真／被爆体験講話の様子

3. 学びの報告

(1) 原爆ドーム

原爆の悲惨さやもう2度と同じ過ちを起こしてはいけないということが原爆ドームから伝わってきました。ほぼ被爆した当時の姿のまま立ち続ける原爆ドームは時代を超えて核兵器の廃絶や世界の恒久平和、戦争を直接は知らない私達に被爆した方々の無言の訴えを伝えていると思いました。



写真／現地で撮影の原爆ドーム

(2) 広島平和記念資料館

私はこの資料館に行って、戦争や原爆は言葉では言い表せないくらい残酷で悲惨なものだと気づくことができました。資料館は今の私達では考えられない様子やとてもつらい内容のものが多かったです。78年前まで戦争は行われていて、多くの人々が犠牲になったことを自分事として考えることができました。

(3) 平和記念公園

原爆ドームの周りには川や噴水、緑がたくさんありました。原爆が落ちた場所とは思いませんでした。私は噴水が「水を水を」と言いながら息絶えた原爆犠牲者の御霊に捧げ、慰める心を込めて建設されたことを知りました。また、公園の色々なところに平和を願うメッセージが掘られた記念碑がありました。その1つ1つにも意味が込められていることがわかりました。

(4) 平和記念式典「こども代表平和への誓い」

「自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。友達の良いところを見つけること。みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。」これらはこども代表の平和への誓いで話された内容です。簡単そうですが簡単ではないと思います。今できることを自分で考え行動していくことが大切なんだと気づくことができました。

(5) 最後に

私は今まで漠然と戦争や核兵器はだめと思っていたけれど、自分事として戦争や核兵器について考えることができるようになりました。また、つらい過去があったからこそ今の生活があると改めて気づくことができました。

私の思う平和は「誰もが笑顔で過ごせること」です。そのために私は、まず身近な生活の中で自分から行動し笑顔を増やしていけるようにしたいです。今はまだこれを実現することは難しいと思いますが、自分なりに答えを見つけながらみんなで平和をつくっていかうと思います。

1. 事前学習「戦後の復興」

とある数十年前の日本での話。太平洋戦争末期の当時、連合国軍による空襲が激化し、多くの都市が罹災しました。また、建物疎開によって破壊・撤去された建物もありました。これらの影響で街全体がみるみると破壊されていったのです。

しかし、このような過去があったのにもかかわらず、現在の日本は罹災していた面影を感じさせません。なぜならそれは、戦後の復興にたくさんの先人たちの努力があったからなのです。

戦災復興事業完遂までの流れ

〈法令〉

罹災都市応急簡易住宅建設二関スル件

30万戸の簡易住宅を作り、住居を失った人に供給する。

住宅緊急措置令

使用できる建物は地方長官の権限によって、住宅として指定可能。

戦災地復興計画基本方針

国の戦災復興計画における、基本的な方針を示した。

特別都市計画法

地権者から所有地の一部を公共用地として有償で提供してもらい、土地区画整理方式が実施される。

〈機関〉

内務省国土局
戦災復興院
建設院
建設省

まず、戦後の復興のための最初の措置として「罹災都市応急簡易住宅建設二関スル件」がとられました。この法令が出されたのは9月初旬。その約3ヶ月後の12月前には30万戸の簡易住宅を設立し、住居を失った人々に住める場所を提供することが目的でした。この措置の一環として11月中旬には「住宅緊急措置令」が出されましたが、様々な理由により、作業は見込みの僅か8%ほどしか進展しませんでした。

戦時中から戦後までの都市計画は右記の行政によって進められました。戦災復興院を中心に、都市計画行政について検討した結果「戦災地復興計画基本方針」が決定しました。このなかに示されている方針の1つである、戦災復興事業についてさらに検討した結果「特別都市計画法」が制定されました。この後も復興事業は進められ、1960年までには全国の戦災復興事業が完遂しました。

戦時中の都市計画行政

〈計画〉

一般都市計画→内務省国土局

防空都市計画→防空総本部

〈実際〉

一般都市計画→対応なし

防空都市計画→防空総本部+内務省国土局

戦後の都市計画行政

防空総本部は廃止。内務省国土局中心に戦災復興にあたる



早く戦災復興を実現させるためには、新しく、別の中心となる組織を作るべきだ！

内務省国土局

→戦災復興院が設置される

戦後の復興について調べていると、数文字では表せきれないほどの先人たちの努力を身にしみて感じました。復興を成し遂げるという目的に向かい、様々な計画を立て、実行していきませんが、全てが上手くいくわけではありません。この一連は、現代の私たちも時折目の当たりにする壁です。ですが、先人たちはこの壁に粘り強く向き合い、結果として超えていっています。私は今回の事前学習を通して、粘り強く追求することの重要性を感じました。この学びを糧に、広島派遣へ臨んできます。

2. 学びの記録「ヒロシマの心を世界に2023」

広島市立舟入高等学校演劇部の皆さんによる演劇「あの夏を生きた人へ」を鑑賞しました。

(1) 内容

高校生4人が学校の授業から、課題である原子爆弾についての調べ学習をする中で、原子爆弾と紛争について様々な観点から違いを考えていく、というものでした。4人は視野を、学校内から全国、更には海外にまで広げていました。多くの立場の意見を自分たちだけの力で吸収した上で、考えを深めていました。

(2) 演劇から考えたこと

広島に住んでいる人はもちろんのこと、日本人は紛争よりも原子爆弾への関心が強いと思います。また、ひとりひとり原子爆弾投下・紛争に対する考えや捉え方は異なります。

この演劇を通して舟入高校演劇部の皆さんは何を伝えたかったのか、私なりに解釈してみました。この演劇のほとんどのシーンは、話し合いによって進められています。ところが、学習を進める過程で彼らは何度もぶつかり合います。他の予定が入っていて時間が取れなかったり、そもそも調べ学習が嫌いだったり、そんな意欲のない様子に苛立ってしまったり、と各々抱える思いは様々です。実際に喧嘩のようになっている場面もあります。しかし、最終的には話し合いを通じて彼らは互いに理解し合っていました。

私はこれらの内容から、核兵器や武器、武力などの力を使用せず、話し合うことで解決することの重要性を伝えたいのだと感じ取りました。日常生活の一部から力ではなく言葉で解決できるような世界になれば、世界規模の対立でも言葉に重きが置かれるはずです。広島の高校生の思いが世界に伝わってほしいと思います。



写真／現地で撮影した演劇が始まる前の様子

3. 学びの報告

この3日間を通して、いままで心のどこかで他人事だと思っていた原子爆弾投下について、自分事として考えるようになりました。

(1) 原爆ドームに動かされた私の心

広島に滞在している際、何度も原爆ドームを目にしました。一番最初に見たときは、世界遺産に登録されているだけある有名な建物だなと思い、ただ単に心が踊っているだけでした。ガイドさんの話によると、原爆ドームは、見ると当時のつらい状況を思い出してしまうから取り壊してほしい。という声もあったそうです。しかし、当時1歳だった方の日記にはこんなことが書いてあったのです。

「あの痛々しい産業奨励館（今の原爆ドーム）だけが、いつまでも、おそろべき原爆のことを後世にうったえかけてくれるだろう…」

この日記が多くの人々の心を動かし、原爆ドームの保存は本格化したと言われています。このことを耳にして、原爆ドームは、原子爆弾の恐怖や悲惨さを後世に伝えるのと同時に世界に、核兵器廃絶を訴えかけるという役割を果たしているのだと思いました。

3日目に見た原爆ドームは、雨が降っていました。この3日目というのは8月7日。8月6日の広島への原子爆弾投下の翌日にあたります。しとしとと降り落ちる雨は、まるで亡くなった被爆者の方が泣いているかのようでした。また、当時の人はとにかく水を求めていました。もしかしたらこの雨は、亡くなってしまった方が恵みの雨として降らしてくれたのかもしれない、そんなふうにも感じ取れました。

(2) これからわたしたちができること

冒頭、自分事として考えるようになった、と言いました。これは生涯を通してやるべきことを見つけたという意味です。正直、中学生にできることというのは限られていると思います。そんなわたしたちもあと数年すれば大人の仲間入り。次第に日本を担っていく世代となります。そのときに、核兵器廃絶を成し遂げられるよう、二度と戦争という過ちを繰り返さないよう、日本にとどまらず世界中の人々が当たり前の毎日を幸せに過ごせるよう、努めていくことこそがわたしたちのやるべきことだと思います。

もう少し掘り下げてみましょう。これらを実現させるためになら、いま中学生であるわたしたちにもできることがあります。それはたくさん学ぶことです。過去の戦争についてはもちろん、今の社会情勢にも目を向ける必要があります。過去と現在についての理解が深まっていないのにもかかわらず、未来を担うのは、私は避けたいと思っています。今の自分に足りない知識をこの時期に補い、燕市の平和大使から明るい未来を作っていくよう勉強し続けていきます。最後になりますが、広島派遣という貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

1. 事前学習「原爆の被害・惨状」

(1) 原爆による被害

1945年8月6日午前8時15分、広島市上空でB-29「エノラ・ゲイ」は原爆「リトルボーイ」を投下し、約1分後の8時16分に原爆ドームから南東約160メートル、高度約600メートルの高さで炸裂しました。広島市では1945年末までの死亡者数を14万人（±1万人）と推測しています。また、「被爆者動態調査」によると、死亡者数は8月6日では5万3644人、1945年末まででは3万5344人（計8万8988人）となっています。

(2) 原爆による人的被害

原爆による人的被害は主に熱線によるものとされています。この原爆の熱線には、強烈な赤外線、紫外線、放射線が含まれています。その為、約600メートル離れたところでは、瓦が溶けていることから2000度以上に達したと見られています。被爆地から1キロメートル以内では5度の重い熱傷を生じ、人々の表皮は炭化し、皮膚は垂れ下がりました。他にも、熱線による家屋の発火での火災による第2次熱傷の被害を受けた者もいたため、1キロメートル以内にいた人々の約90%は原爆投下から1週間以内に亡くなったとされています。

熱線による熱傷の他に、放射線による被害を受けた人々もいます。人体に影響のない放射線量は200ミリシーベルト以下とされています。しかし、爆心地による放射線量は、たくさんある成分の中の1つであるガンマ線だけでも、103シーベルト、爆心地から500メートル離れた場所で28シーベルト、1.25～1.5キロメートル離れた場所でも9.46シーベルトあったとされています。その為、この圏内の被爆者の方たちは致死量の放射線を浴びており、即死、長くても1ヶ月以内には大半の人が亡くなりました。

放射線の1回照射量と身体影響

(mSv = ミリシーベルト)

250mSv 以下	身体症状なし
500mSv	白血球一時減少
1000mSv	吐き気、おう吐
1500mSv	50%の人に放射性宿酔 (二日酔いのような状態)
2000mSv	5%の人が死亡
4000mSv	30日間で50%の人が死亡 (半致死線量)
7000mSv	100%の人が死亡

引用元／長崎大学原爆後障害医療研究所

(3) 最後に

原爆による被害は肉体的な影響だけでなく、精神的な影響も多くの人に残っていることが分かり、今まで以上に強く心が痛みました。

2. 学びの記録「広島平和記念式典」

2日目の朝、私達は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（広島平和記念式典）」に参列しました。今回は新型コロナウイルスの緩和に伴い、感染が拡大する前と同じ規模での開催となりました。また、今年5月には初めて広島という被爆地でG7サミットが開かれ、改めて世界から注目された式典になりました。このような影響もあってか参列国は昨年を大きく上回る111カ国となり過去最多、また、参列者数も約5万人と昨年を大きく上回る人数となり、過去最多となりました。

(1) 参列し分かったこと

私は、この式典で行われた「原爆死没者名簿奉納」で改めて分かったことがあります。それは、原爆投下から78年経った今でも原爆による被害で亡くなっている方がいるということです。今回の式典で奉納した名簿数は5320名分で昨年までと合わせると33万9227名分となりました。そこで私は、より一層原爆の被害の悲惨さ、深刻さを学びました。



写真／原爆死没者慰霊碑

(2) 式典で印象に残った場面

私はこの式典ですべての場面が印象に残りましたが、特にこども代表による「平和への誓い」が印象に残っています。広島市内の小学校に通う6年生の2人が平和とは、平和のためにできることを精一杯誓うその姿にとっても感動しました。そして、感動したのは私だけではないと確信した瞬間もありました。それは、2人が誓ったあとの拍手です。「平和への誓い」の前後にも多くの代表によるあいさつが行われましたが、「平和への誓い」のときの拍手が1番大きく、長く感じました。その拍手に私は、次世代を担う若者による誓いに背中を押す気持ちと、期待の気持ちが感じられました。

(3) 広島平和記念式典を通して

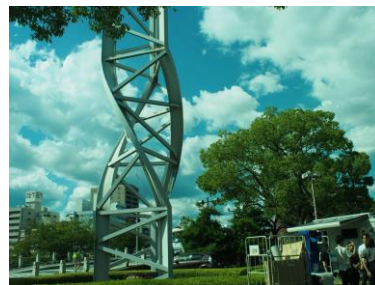
私はこの広島平和記念式典を通して、改めて核兵器の危険性や平和の尊さを学び、より78年前に日本で起こったことの悲惨さを受け取ることができました。また、今このときでも原爆による被害で苦しんでいる被爆者やその遺族が多くいるということも改めて学ぶことができました。この式典で学んだ貴重なことを忘れず、核兵器の危険性や平和の尊さを多くの人に伝え、平和の尊さを伝承していきたいと思います。

3. 学びの報告

この3日間の広島への派遣で私は、戦争や原爆の恐ろしさ、また、平和の尊さをより深く学ぶことができました。

(1) 平和記念公園

原爆が落とされたときには「今から70年は草木は生えない」と言われていたそうです。しかし、今の平和記念公園には多くの植物が生えており、先人たちの努力や生命の生きる勇気を感じる公園でした。また、この公園には約60の石碑や像、モニュメントなどがあります。そこから、より原爆の恐ろしさや未来への明るい光を感じることができました。



写真／平和の時計塔

(2) 広島原爆死没者追悼平和祈念館

私はこの建物の中で、地下2階への降り方と地下2階がとても印象に残っています。1つ目の地下2階への降り方は、追悼空間スロープという場所を歩いていきます。それは反時計回りとなっており、時計の針と逆回りにスロープを下ることにより、被爆直後の広島へとさかのぼっていることを表しています。2つ目の地下2階では、原爆死没者の遺影と名前を公開している場所となっていました。1巡するためには約3時間かかるとあり、近くには一人一人の遺影を名前から検索できる弁駁死没者検索装置というものがあり、私達が祈念館を訪れたときも多くの遺族と思われる方が使われていました。そこで、より原爆がもたらした被害の大きさを感ずることができました。

(3) 最後に

私は被爆地である広島を訪れ、今までの戦争や原爆に対する考えの甘さを1番に感じました。特に資料館に行ったときは、その考えがとても浮き彫りとなりました。今までは単に「戦争や原爆は恐ろしくて二度と起こってはいけないもの」と教科書に書いてあるようなことが頭の中に入っているだけのような状態でしたが、広島に行ってから言葉では言い表せないほどの悲惨さ恐ろしさへと変わりました。

ここ広島で学んだことを今後多くの人に伝えていきます。しかし、自分が実際に感じたことがうまく伝わる自信はありません。それでも、もう二度とできないかもしれない貴重な体験を自分の言葉でしっかり伝えていこうと思います。

今回このような体験をさせてくださった多くの方々、ありがとうございました。

1. 事前学習「太平洋戦争戦時下の生活」

私達が今生きている世の中にあるような「普通の」生活が、太平洋戦争の影響で失われた制限ばかりの生活を、当時の日本人はどう生き抜いたのでしょうか。

(1) 生活における制限

政府は物資を軍備に優先して使ったため、国民の暮らしに必要な物資が不足していきました。物資の不足は、一時的なものではなく、ますます酷くなっていきました。特に鉄が必要とされたため、お寺の鐘が供出させられたりもしました。私達の生活に必要な不可欠である米や調味料、食材、燃料、衣料は配給制や切符制になりました。切符制になったとしても、食事を取らなければ生きていけないので、代用食であるイモ類やすいとう、草殻、もち草、柏の葉、サトイモやかぼちゃの葉や茎まで、色々なものを食べて生き抜いていました。

得 心 ノ 入 購						
購入券	特種物資	購入欄	植	油 豆 揚 腐	砂 糖	醬 油 噌
世帯人員捺印ノ上配給所ニ呈示	特種物資ヲ配給スルニ使用ス	別ニ市ヨリ指示ス	割當量ハ市ヨリ指示 購入券ニ長帯人員ノ記入捺印 期限付 割當量ハ市ヨリ指示 購入券ニ長帯人員ノ記入捺印 期限付 割當量ハ市ヨリ指示 購入券ニ長帯人員ノ記入捺印 期限付	割當量ハ市ヨリ指示 購入券ニ長帯人員ノ記入捺印 期限付	一人當ノ毎月ノ量ハ市ヨリ指示 購入券ニ世帯人員ノ記入捺印 一ヶ月間有効	味噌一人當毎月 醬油ヲ 手帳ノ購入欄ニ呈示 割當量ハ市ヨリ指示 購入券ニ世帯人員ノ記入捺印 期限付

写真・引用元/衣料切符、物資購入手帳

<https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/01/20200724R/archivesPDF/41063iryoukippu.pdf>

(2) 思想や言論の制限

日中戦争が始まってから、思想や言論の制限も一層厳しくなりました。政府や軍を批判したときには、「特高」という特別高等警察に逮捕されました。国民は隣組や五人組で活動することを強制させられ、国債や金属回収の割当や、兵士になる人への歓送、遺骨の出迎え、勤労奉仕、防空演習が義務付けられました。

(3) 勤労の強制

徴兵制が制定され、男子は20～40歳になると軍に兵隊として招集されました。しかし、戦争の長期化により、兵隊が足りなくなったので、19～45歳に広がりました。また、25歳未満の未婚女子は女子勤労挺身隊に入れられ、強制的に工場で働かされました。他にも、大学や高等専門学校に通う学生も兵士にさせられる、学徒出陣が起き、国のために働くことを強制させられるようになっていきました。

(4) 私を感じたこと

太平洋戦争時は、国民が国のために制限させられ、国のために働かされる時代だったことがわかりました。私は、思想や言論の制限があるせいでこれらについて文句を言うことやストライキを起こすことができなかったのが、国民にとってとても辛かったことだと思いました。

2. 学びの記録「広島平和記念資料館」

広島平和記念資料館には、核兵器による被害や、戦争と原爆の悲惨さを伝える様々な写真や物が置いてありました。すべての資料が私にとって衝撃的であり、見るのがとても辛いものもたくさんありましたが、音声ガイドを通して自分の耳で聞き、展示されている資料を自分の目で見て、より深く学ぶことができました。

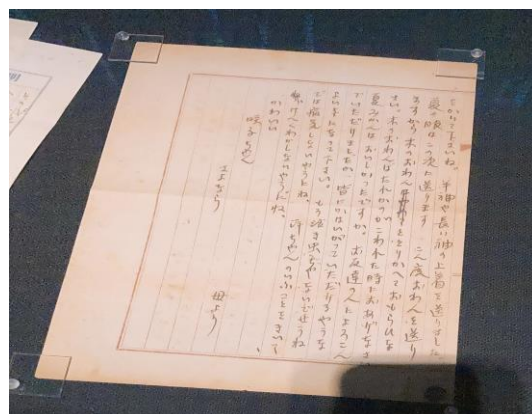
(1) 魂の叫び

私は、この広島平和記念資料館で本人の写真と衣類、一人ひとりの言葉が展示されていたのが心に残っています。亡くなった人、殺された人、一人ひとりや、遺族の方の言葉は、私にとって重く、見ていてとても切なかったです。戦争や原爆の被害にあい、亡くなった方々のすべての魂の叫びは、後世に戦争の辛さを伝える大切なものだと思います。また、私はこれらの言葉を読み、今日本で戦争が起こったら自分も周りの人もこんな辛い思いをする事がわかりました。

(2) 疎開先で受け取った家族からの手紙

皆にかわいがっていただけるような
よい子になってください。もう泣き虫じ
ゃないでしょうね。かわいい咲子ちゃん
母より さよなら

これは、当時疎開先で生活していた咲子さんに、お母さんが書いた手紙の内容です。一緒に生活できないからこそ熱がこもったお母さんの言葉を読み、とても辛くなりました。



写真/実際の手紙の様子

(3) N家の崩壊

原爆が与えた被害はこのような体に現れるものだけではありませんでした。Nさんは働き続けた妻をなくし、子どもを殺して死のうと決心し子どもの首に手をかけましたが、力が入らず朝を迎えました。働かなければ餓死に追い込まれ、働けば病気に耐えきれないほど苦しまされ、悪循環は続いていきました。私は、原爆や戦争が心や家庭環境にまで悪影響を与えたことを知り、辛いと思いました。

(4) 感想

私は今まで、広島平和記念資料館に怖いイメージを持っていました。しかし、今回の派遣で実際に訪れることができたことで、「戦争は絶対に起こってはいけない」ということを強く考えるようになりました。

3. 学びの報告

私は、この3日間でたくさんの貴重な体験をさせていただきました。

「みなさんにとって「平和」とはなんですか」

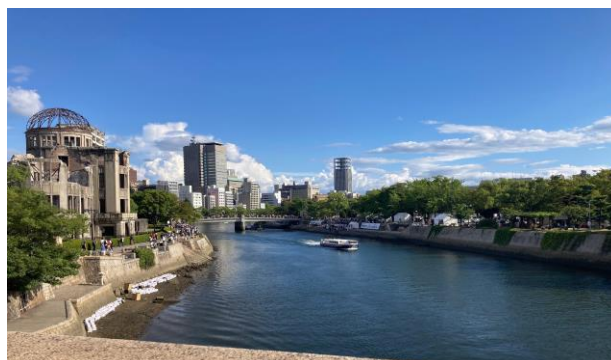
これは、今年の平和への誓いで伝えられた言葉です。これまでの私にとって、平和とは国同士の争いがなく、裕福に暮らしていけることだと思っていました。しかし、実際に広島で自分の肌で触れ、耳で聞き、目を見たことでそれだけが平和ではないと考えるようになりました。

実際に被爆し、被爆体験講話をしてくださった波田さんは、被爆した父の変わりゆく姿や態度が許せなかったそうです。原爆の子の像には、たくさんの平和への願いと千羽鶴が飾られていました。平和記念資料館には戦争と原爆の悲惨さを伝える資料がたくさんあり、見ながら涙を流す人がたくさんいました。平和記念式典では、各国、各地域の代表など沢山の人が献花に訪れ、日本や世界が注目していました。舟入高等学校演劇部の公演では、原爆を自分事と捉える重要性を感じました。広島原爆死没者追悼平和祈念館には、被爆し亡くなった方の写真と名前がたくさん展示されていました。灯籠流しには多くの人が訪れ、あの日多くの人が水を求め飛び込んだ川に追悼や平和の意を込めた灯籠を流しました。おりづるタワーからの景色は、発展した広島の風景がきれいに見えました。このように広島でしか体験できないことをたくさん体験したことで、教科書では感じるできないほど戦争の恐ろしさを感じました。

これらの経験を通じ、私が考える平和とは「戦争の悲惨さを感じることができる環境にあること」です。もちろん、「みんなが笑顔であること」「仲良く暮らせること」も大切だと思います。しかし、今笑顔で仲良く暮らせるのは、過去に戦争があり、その教訓を今活かしてこの日本で戦争がないからだと思います。

一人ひとりが平和とはなにか考えることができる今だからこそ、皆さんに平和とはなにか考えてみてほしいです。

あなたにとって、平和とはなんですか？



写真／相生橋から見た広島の風景

1. 事前学習「現在の世界情勢について」

(1) 現在も続いている戦争・紛争・内戦

世界で現在も続いている戦争としてロシアのウクライナ侵攻がネットなどで大きく話題になっています。ですが、ネットなどではあまり報じられてない現在も続いている戦争や紛争、内戦が数多くあります。ではなぜ戦争、紛争、内戦が起こるのか、それによる人々への影響など詳しく調べました。

(2) 戦争・紛争・内戦をしている国とその原因

戦争などが起こる原因として宗教の違い、民族の違い、政権不安定、大国の介入、紛争鉱山物など資源の取り合いなどがあります。

戦争・紛争・内戦が現在も続いている国や地域

	開始年	紛争地域	累計死亡数	対立原因
アフガニスタン紛争	1978	アフガニスタン	約200万人	アフガニスタン人民民主党に対する武力蜂起
ミャンマー内戦	1948	ミャンマー	約20万人	ミャンマー国軍による攻撃
スーダン・南スーダン内戦	2021	南スーダン	約40万人	宗教による対立
シリア内戦	2021	シリア	約50万人	政府軍と政府軍反対派による対立
ロシアのウクライナ侵攻	2022	ウクライナ	約35万人	ウクライナのNATO加盟を阻止するため

(3) 戦争・紛争・内戦による被害

戦争などが続いている国では苦しい状況の中で生活している人や、国外へ避難している難民がたくさんいます。2022年は1億840万人が住む家をなくしました。これは、世界の人口の74人に1人という割合です。特に戦争で被害を受けた子どもたちは食糧不足で栄養が不足していたり、学校に行けなくなり働かないと生きていけないという状況に陥っています。また感染症や病気などにより更に過酷な状況で生活しなければいけない人もいます。

(4) 私達にできること

・募金活動

1,314円：子供用鉛筆10本、ノート10冊 380円：浄水剤1000錠

83円：ビタミンなどを含んだ微量栄養素パウダー30袋 など

平和な世界をつくっていくために、様々な課題があると思います。すぐには解決できないかもしれませんが、募金や支援団体などを通して少しでも平和な世界に近づけるようにしたいです。



引用元／SDGs16

2. 学びの記録「広島平和記念公園」

広島派遣2日目、ボランティアの方に平和記念公園をガイドしていただきました。ガイドをしていただき原爆の傷跡が残る石碑や慰霊碑、平和の願いが込められている鐘など初めて拝見するものがありました。

(1) 原爆の子の像

原爆の子の像は原爆で亡くなった子どもたちへの思いが込められていて、世界の平和を呼びかける像です。像の周りにはたくさんの千羽鶴が奉納されていました。奉納されている千羽鶴や、原爆の子の像の鐘の音からは平和を願う気持ちが伝わってきました。



写真／原爆の子の像

(2) 平和の鐘

平和の鐘とは核兵器と戦争のない世界を目指して平和記念公園につくられました。鐘の表面には国境のない世界地図が彫られていました。鐘の周りにはハスが植えられていました。被爆当時、火傷の痛みを少しでも和らげようと被爆者の方々はハスの葉を傷跡にあてたそうです。鐘を鳴らすことで、被爆者の方々と私達の平和を願う思いが世界に広がっていくように思いました。



写真／平和の鐘

(3) 被爆アオギリ

アオギリは爆心地から約1.3km離れた場所で被爆しました。被爆当時、枝葉はすべてなくなり枯れ木同然だったそうです。ですが、翌年の春になると芽吹き、多くの人に生きる勇気を与えたそうです。被爆アオギリは、被爆したとは思えないほどとても大きくたくましく育っていました。現在ではアオギリ二世として広島県外や国内外に送られ元気に育っているそうです。燕市にも移植されており、たくましく育っています。



引用元／燕市役所内にある被爆アオギリ2世

3. 学びの報告

私はこの広島派遣を通して広島の方々の思い、戦争のない世界を目指す意味を実際に見て、聞いて考えることができました。

私は今まで原爆のこと、戦争のことについては授業で学んだ知識しかありませんでした。ですが、この広島派遣を通し原爆のことだけでなく、被爆者の方々の思い、平和な世界とは何なのかなどたくさん考えさせられました。

私は平和記念式典に参加し、戦争のない世界、核兵器のない世界にするには世界で唯一の被爆国である日本が行動していかなければならないと思いました。式典には多くの方が参列していました。中でも私たちのように広島県外から訪れた方や、国内外から訪れていた方が多くいました。日本国外から訪れた方が多いからこそ、式典を通して世界の平和の重要性が日本や世界各地に広がっていくと思います。

ですが、日本は核兵器禁止条約に否定的です。日本や世界で核兵器が使用されないようにするため、このような現状を変えていかなければならないと思いました。私は広島平和記念資料館を見学し、原爆の恐ろしさを改めて知りました。放射線による後遺症、被爆した服、被爆した様子を伝える絵。本当にこれは広島なのかと疑うほどの展示物がたくさんありました。資料館を通して核兵器は世界からなくさないといけないという思いが強くなりました。

「2度と戦争を繰り返してはいけない。核兵器を世界からなくす」この思いをもって世界に訴えていくべきだと思います。今も戦争で苦しんでいる方がたくさんいます。宗教が違うから、資源を手に入れるためなど、様々な原因で戦争が起こっています。世界から戦争をなくすため、核兵器をなくすため、私達は行動しなければなりません。核兵器をなくすことは簡単なことではありません。ですが、国と国がお互いを理解し合ったり、認めあえば核兵器をなくすことができるのではないのでしょうか。



写真／原爆ドーム

そのために私は、身近なことからお互いを理解し合いたいと思います。現地へ行き、より「平和な世界」について考えることができました。いまの自分にできることを見つけ、平和な世界が実現するよう行動していきたいです。そして、今回の広島派遣で学んだことをたくさんの人に伝えていこうと思います。

「Think globally Act locally」

(引率者) 学校教育課 小林 大介

広島市の街では、多くの「人」に会いました。
「どこからきたの？」と多くの質問を投げかけてくれたタクシードライバーさん。被爆講話で私たちに投げかけるように話してくれた講師の先生。
外国の方に対しても英語で相手を笑わせる会話をするお好み焼き屋の店員さん。
平和記念式典に向かって歩いている時、「来てくれてありがとう」と声をかけてくれた方。ガイドツアーの中で生徒の反応を丁寧に拾って説明を行ってくれたボランティアのガイドさん。少しでも楽しんでもらおうとたくさん質問をしたり提案してくれたりしたおりづるタワーの方。



最終日に派遣生徒と3日間を振り返った時に、「いろいろな人に出会ったね」という話をしたところ、生徒も同じようにたくさんの「人」を思い出してくれました。それだけ印象に残ったのだと思います。

広島で会い、印象に残った「人」の共通点は、自分から一歩踏み出していることや、他の地域から訪れた人を受け入れようという気持ちがあふれていることです。

広島には多くの人を訪れるから、自然とそのようになったのでしょうか？

広島で観た高校生の演劇は、「原子爆弾についての調べ学習をしている学校」が舞台になっていました。その中に「広島の人には原爆が落とされた日や時間はみんな言えると思う」という言葉がありました。
学校の授業や家庭での話や町全体として伝え続けてきたことで、誰もが共有している背景がある。
知識としてではなく、自分とは離れた世界のこととしてではなく、自分事になっていく。

このような経験を経て、自分の街に対する思い、自分の街にプライドをもつようになるのだと思います。
自分の街のことが好きだ、自分の街のことを伝えたい、自分の街で幸せになってほしい。
このような気持ちをもった「人」を、街全体で育てていったのではないかと、今回の派遣事業でそのように考えました。

これは言葉にすると簡単です。
だけど、本当の意味でこれを行うことは難しいことです。
なぜなら、何をしたらいいのかという「正解」はどこにもないからです。

だから、自分で考えて、自分が正しいと思ったことを行う。
広島で出会った人たちは、それを実際に言動で表現していました。
それがどんなに小さなことであっても、世界を変える一歩になっていると思います。世界を変えるために、直接世界に働きかける方法もあると思います。だけど、どんな一歩も自分の足元からはじまります。
目の前の人を幸せにすることが、世界の人を幸せにすることにつながっていきます。

「私たちは、燕市の平和大使です。」

この言葉を、事前研修の時から何度も派遣生徒の5人から聞きました。皆さんにとって、プライドとなる言葉だったのではないのでしょうか。
広島の間でも、自分たちは燕市の代表なんだ、という気持ちから積極的に行動する姿が見られました。

「平和大使」としての役割は、報告会で終わりません。皆さんが、広島で出会ったたくさんの「人」のように、自分ができることを考え、自分から一歩踏み出して、今を輝かせて生活すること、これこそが「平和大使」としての役割です。

さあ、楽しみになってきましたね。私も、皆さんがこれからの生活を輝かせてくれることを楽しみにしています。



広島市を訪れて感じたこと。

(引率者) 学校教育課 柎木 綾香

私は今年度より学校教育課に異動になり、広島平和記念式典派遣事業を担当し、初めて広島市を訪れました。日本人として、一度は広島市を訪れてみたい、原子爆弾がこの地域にどのような被害を与えたのか実際に自分の目で見てみたいと長い間思っていました。今回このような機会を与えてくださり、感謝しています。広島市を訪れて思ったのは、緑が多く広い広場もあり、人もたくさんいて活気がある街だなと思いました。世界中から観光客が訪れているためか、夕食に訪れた先でも外国人のお客さんに店員さんが英語で対応していたり、広島電鉄に乗った際も外国人のお客さんに年配の女性の方が降り方を片言の英語で教えていたり、すごくインターナショナルで親切な人が多いと感じました。式典当日の朝も徒歩で、会場に向かっていたところ、交差点上ですれ違った年配の女性の方に「広島に来てくれてありがとう」と言ってもらえたことが印象に残っています。

被爆体験講話の際に講師の波田様から、講話会場から見られる建設現場から未だに原子爆弾で被害にあった方の遺骨が見つかるんと言われていると聞かれました。その時、「私は未だに遺骨が見つかるんだ…この場所が78年前に原子爆弾が落とされ、たくさんの方が亡くなられた場所なんだ」と改めて原子爆弾の恐ろしさを肌で感じる事ができました。原爆で亡くなった方の遺骨がすべて見つかり、しっかり供養できるように一日も早く見つかってほしいと思います。



また、原爆ドームのところに行った際は、そこだけ時間が止まっているような感覚に陥りました。ほかのところは近代的できれいな建物なのに、そこだけ本当に時間が止まっていて、昭和20年当時のままでした。残された経緯を今回広島を訪れはじめて知ることができました。1歳の時に被爆し15年後に急性白血病のため16歳で亡くなった楮山ヒロ子さんの日記に「あの痛々しい産業奨励館（原爆ドーム）だけがいつまでも、恐るべき原爆を後世にうたえてくれるだろう」などと日記に書き遺し、この日記を読み感銘を受けた人々によって「原爆ドーム保存募金活動と署名活動」が始められたとのこと。やがてこの活動が広島市議会を動かし、広島市長を動かすことにつながったとありました。広島市議会が保存を決議したのは、被爆後21年のことでした。

令和5年は、新型コロナウイルスの対策も緩和し、インバウンドもあり外国人の観光客が広島市をたくさん訪れていました。原爆ドームが今日に残っているおかげで、その惨状を自分の目で見る事ができたこと、想像することができたことは、本当によかったと思っています。当時は、原爆ドームを見ると当時のことを思い出すから取り壊してほしいという声も上がったそうです。ですが、取り壊さなかったおかげで、日本人だけでなく世界中の人たちも広島市を訪れ、現在も残る原爆ドームを見ることができることがきっと世界平和に繋がっているのだと思います。今現在も戦争や紛争などの争いが世界中で起こっています。これからの平和の世界を考えること、平和な世界を望むことが大事なのだと広島市を訪れ思いました。今あるこの日本の繁栄が先の戦争のおかげだと、しっかり胸に刻み、日々過ごしていきたいと思います。また、これからも戦争がない日本で暮らしていきたいと強く思いました。



平和大使の皆さんも、暑い中たいへんお疲れ様でした。これからも令和5年度平和大使として、この広島派遣で学んだこと、感じたことを忘れずに学校生活が充実してくれることを期待しています。とても良い仲間ができたと思います。来年度の広島派遣報告会のご案内もお送りします。成長された平和大使の皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。



最終日の7日に訪れたおりづるタワー屋上にて記念撮影。平和記念公園・原爆ドームを眼下に望み、原爆投下から78年後の発展した広島街並みを見る。緑に囲まれて活気ある美しい街だと思いました。



5日の夕食に広島名物のお好み焼きを食べました。とても大きなお好み焼きにびっくり！しました。良い思い出になりました。

派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業および平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに、次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点で命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成すること。

(2) 主な活動内容

- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- ②広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- ③原爆の子の像に各校で制作した千羽鶴を奉納
- ④被爆体験講話の受講
- ⑤とうろう流しへの参加
- ⑥市民への報告（市内会場で報告会を実施）
- ⑦全校生徒への報告（2学期に各学校で報告会等を実施）
- ⑧報告書の提出

広島派遣時

派遣後

1. 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動を進めるため、役割分担をする。

役割分担の内容		氏 名 (中 学)
(1)	ミーティング・被爆体験講話司会	佐野 莉音 (吉田中)
(2)	記録 (見学・訪問先等)	常野 莉央 (小池中)
		阿部 心音 (燕 中)
(3)	被爆体験講話講師へお礼のことば	竹田 夢羽 (燕北中)
(4)	引率者との連絡調整	小田島 和香 (分水中)

2. 学習の過程および分担

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習

事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- | | |
|--------------|---------------|
| ①日程および資料の確認 | (担当： 全 員) |
| ②被爆体験者への質問 | (担当： 全 員) |
| ③太平洋戦争戦時下の生活 | (担当： 佐野 莉音) |
| ④広島原爆投下の背景 | (担当： 阿部 心音) |
| ⑤原爆の被害・惨状 | (担当： 竹田 夢羽) |
| ⑥戦後の復興 | (担当： 常野 莉央) |
| ⑦現在の世界情勢 | (担当： 小田島 和香) |

(2) 学びの記録

以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

- | | | |
|------------|-------------------------------------|---------------|
| 広島での
学び | ① 広島平和記念公園 | (担当： 小田島 和香) |
| | ② 広島平和記念資料館 | (担当： 佐野 莉音) |
| | ③ ヒロシマの心を世界に 2023 | (担当： 常野 莉央) |
| | ④ 被爆体験講話 | (担当： 阿部 心音) |
| | ⑤ 広島平和記念式典
(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式) | (担当： 竹田 夢羽) |

(3) 学びの報告（まとめ）

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、また、これらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

3. 広島平和記念式典派遣事業報告会

日 時：令和5年8月27日（日）午前10時30分から11時30分
場 所：中央公民館3階中ホール

広島平和記念式典派遣事業の様子



被爆体験講話 (8/5)

9歳の時、爆心地から20Kmの避難先でキノコ雲を目撃し、入市被爆※した波田保子様のお話を伺う(※爆心地から半径2Km以内に2週間以内に入った方のこと)



千羽鶴の奉納 (8/5)

みんなの願いを原爆の子の像に奉納



広島市原爆死没者慰霊式並びに 平和祈念式に参列 (8/6)

広島平和記念資料館見学 (8/5)

原爆の恐ろしさ、投下後の
広島を深く知る



現地のボランティア ガイドによる平和記念公園 の散策 (8/6)



原爆死没者慰霊碑に 献花 (8/6)



とうろう流しに参加 (8/6)

恒久平和に願いを込めて



ヒロシマの心を世界に 2023 見学 (8/6)

広島市立舟入高等学校演劇部
による演劇鑑賞



おりづるタワーを見学 (8/7)

おりづるの壁におりづるを投入し
平和を祈願



報告会の様子 (8/27)

およそ100名の方々がご来
場くださいました

被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 30 年 4 月 植樹



令和5年度 広島平和記念式典派遣事業
平和大使 活動報告書

派遣期間：令和5年8月5日（土）～7日（月）

燕市教育委員会学校教育課